

# 北米を中心に生産施設建設を支援

インスペック グループは豊田太郎社長が2001年1月にポートランド市で起業した総合エンジニアリング企業。北米を中心に生産施設建設プロジェクトを支援している。創業以来、信頼と実績を積み重ね、現在では顧客の9割が米国に進出した日系企業で占める。そこで、インスペックグループの廣田哲也プロジェクトマネジャーに同社ならではの強みやオレゴン州の事業環境などについて聞いた。

「顧客の約9割がヤマサ醤油や味の素冷凍食品、東シなど日系企業です。その原動力は何でしょうか。」「当社の理念でもある『オープンブック方式』を

採用している。これは分かっていない建設コストを見える化したのが特徴。見積書には各項目の値段を細かく明記することで、数字の裏付けにもなる。例えば、

「入札した下請け企業の見積書を開示し、当社が選択した企業の理由を説明している。お客さまにもコストの身を理解してもらうことができる。それが安心と信頼につながり、お客さまと一緒にプロジェクトをつくりあげるといって、社長の豊田のビジョンにもなっている」

「御社のミッションに『低炭素社会への貢献』を掲げています。」

「ポートランド市は環境対策を重視している。企業としてどのように貢献できるのかを考えた。太陽光パネルや空調機器メーカーなどの協業で、循環型の環境にやさしいプラントづくりも挙げられる。またLEEDの資格を持った設計者もいる。彼らが環境に配慮した設計図の作製も低炭素社会への貢献につながっている」

## インスペック グループ

### コストが見える化 信頼獲得

### 日本人スタッフが実務担当



プロジェクトマネジャー  
廣田 哲也氏

「いる。従業員はグループ全体で110人。この内、15人の日本人スタッフが在籍し、7人がプロジェクトの実務を担当している。日本語で設計仕様書やコスト、契約書の説明を受けることで安心感はもちろん、我々もお客さまのエンジニアリング部門の一員だという意識が芽生えてプロジェ

「オレゴン州の事業環境はいかがでしょう。」「西海岸に位置し、米国の中でも日本との地理的距離が近い。外国文化への受け入れも非常にオープン。こうした土壌が、オレゴン州政府による日系企業誘致への熱意につながっている。労働者のスキルも非常に高く、中小企業にとっても進出しやすい環境になっている。ポートランド日本人商工会もあり、コミュニティに入りやすく、初めての海外進出でも安心してできる」